

コロナ第2波へ備え オンライン授業準備 設備・研修・課題多く

赤穂市教育委員会は、新型コロナウイルス感染拡大の第2波によって学校が休校となる場合を想定し、授業のライブ配信や双方向性のオンライン授業の実施を検討中である。7月29日の市総合教育会議で明らかにした。市は、自宅にネット通信環境のない児童生徒にWi-Fi機器を無償貸与するための予算をすでに確保。また、国が進める「GAスクール構想」に基づき、年内にすべての小・中学生にタブレット端末を1台ずつ提供する計画だ。現在はICT研究部会を軸に実機を使った研修を進めている。まずは今年4月から5月の休校時期にも実施した教科指導の補助資料となる動画配信を進めの方針。授業ファイル配信や双方性オンライン授業は「児童生徒に負担がかからないよう導入する必要がある。まだ課題が多い」といふ(学校教育課)と慎重だ。

会議では、タブレット端末の整備が完了しないうちに休校になつた場合の対応について議論。感染拡大を防ぐためには、市内でも新型コロナウイルス感染が確認された。感染された方々の少しでも早い回復と、感染が拡大しないことを願いたい。赤穂市内でも新型コロナウイルス感染が確認された。感染された方々の少しでも早い回復と、感染が拡大しないことを願いたい。

「かもしだれな」の心構えで感染防止

赤穂市の生徒は、自分が会った知人の感染が分明するに連絡した。もし、自身の陽性が判明するもたらしたら、さうに感

じてしままかもしだれな「かもしだれな」の心構えで感染防止。市内居住で最初に陽性が確認された関西福島の市は、自分が会った知人の感染が判明すると、すぐに大学や行動履歴調査への協力を消極的にさせてし

長の牟禮正稔市長は、「とにかく大変だが、一年や半年のサイクルで心配していない。大変なことは大変だが、一年や半年のサイクルでみると安定するのではないか。何とかなるのではないか」と述べた。

昌教育長は、「そんなに課題だと感じ、尾上慶一郎市教委は各家庭に一定の通信環境があれば、端末が同じでなくともオンラインの指導を展開していくことは可能」「Wi-Fi機器は8月にも貸し出せる」とした一方、「児童生徒側の端末がない」とした一方、「児童生徒は詳細な学習支援は難しい」とした。

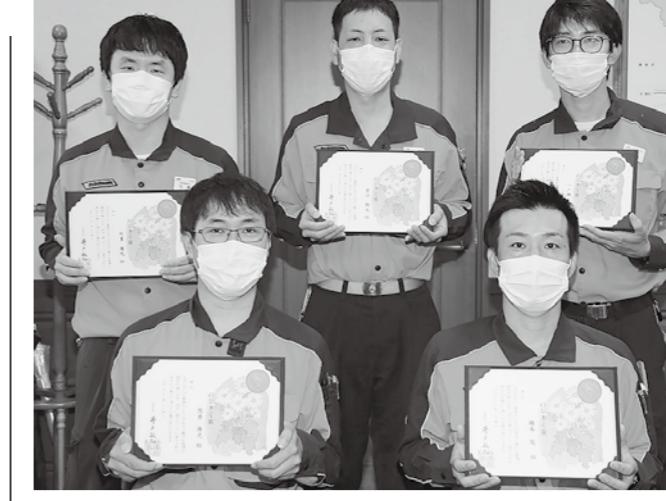
また、「休校になつて

マホでは詳細な学習支

持は難しい」とした。

JR西日本社員5人に 交通事故負傷者を救護

交通事故の負傷者を救護したとして、JR西日本の社員5人に兵庫県の「じぎく賞」が贈られ、加里屋中洲



受賞したのは、同社近畿統括本部姫路電気区信号通信グループの橋本茂さん(37)▽筒井隆之さん(34)▽竹重優也さん(30)▽井口翔太さん(30)▽瀬拓海さん(26)。本年6月30日午後5時半ごろ、踏切の保守作業を終えて会社へ戻る途中、赤穂市黒崎町の国道255号交差点で原付バイクと普通自動車の交通事故現場に遭遇。緊急通報するとともに、バイクごと転倒して動けなくなってしまった大学生の女性(20)を安全な歩道上へ移動させた。緊急通報するとともに、バイクごと転倒して動けなくなってしまった大学生の女性(20)を安全な歩道上へ移動させた。

は今年6月30日午後5時半ごろ、踏切の保守作業を終えて会社へ戻る途中、赤穂市黒崎町の国道255号交差点で原付バイクと普通自動車の交通事故現場に遭遇。緊急通報するとともに、バイクごと転倒して動けなくなってしまった大学生の女性(20)を安全な歩道上へ移動させた。

したがって、今後も率先して行動したい」と頼んだ。係長としてグループを束ねる橋本さんは、「公共交通に関する者として、今後も率先して行動したい」と頼んだ。係長としてグループを束ねる橋本さんは、「公共交通に関する者として、今後も率先して行動したい」と頼んだ。

(写真は交

しかったと聞いて安心しました」と竹重さん。

JR西日本社員5人に

交通事故負傷者を救護

しました」と竹重さん。

JR西日本社員5人に

交通事故負傷者を救護

しました」と竹重さん。

は、このままでは

交通事故負傷者を救護

しました」と竹重さん。

は、